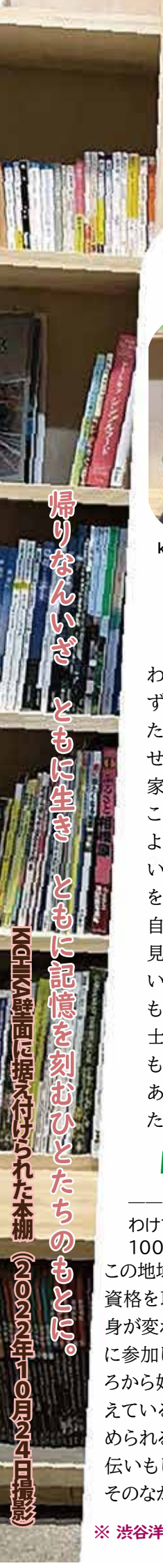
このまち感じよう!
ここずたうん
大野南地区を楽しく育てる情報紙
発行：NPO法人ここずっと　2022 November
No. 22



帰りなんいざ　ともに生き　ともに記憶を刻むひとたちのもとに。

KOTEX壁面に据え付けられた本棚（2022年10月24日撮影）

ここひと インタビュー

kichika にて渋谷洋平さんと渋谷純平さん

今号でご登場いただいたのは〈さがみはら100人カイギ〉の発起人4人の内のおふたり。ご兄弟で不動産・賃貸業を営む兄の渋谷洋平さん（写真左）と弟の渋谷純平さん（写真右）です。〈100人カイギ〉は、「マチで活動する 100 人がプレゼンする」をコンセプトに高嶋大介さんが東京都港区ではじめたゆるやかに結ぶコミュニティ活動で、全国各地で展開されています。港区、渋谷区に次いで〈さがみはら100人カイギ〉は全国で３番目、２０１８年４月から始まり、現在までに８４人が登壇。おふたりを訪ねたのは、相模大野駅から徒歩 2 分の事務所兼オープンスペース〈kichika〉。背後に公園のあるマンションの地下１階。まるで、子どもたちの秘密基地のようなスペースでした。

地元とともにある暮らしからたどりついたまちづくり

――地元で生まれ地元で育ったとお聞きしたのですが、ずっとこのまちにくらされてきたのでしょうか？
おふたりにとって、このまちの魅力って何でしょう？

わたしたちは、鹿島台小学校区で生まれ育ちましたが、ずっと暮らしていたわけではなく、都内で働いていました。それこそ、朝早くから夜遅くまで子どもと顔を合わせないくらいの生活をしていたのです。3.11 があって、家族と一緒に過ごすことのできる暮らしがしたいと思い、こんなふうに働きたいと思っていたのだろうか、と考えるようになったのです。そんな時に、タイミングがあったというか、祖父の相続問題があって、2013年に不動産屋を兄弟でやろうということになったのです。

自治会長や神社の世話役をしている父の姿をそれとなく見てきていましたし、母親や子どものときからの友だちがいるのも安心でした。このエリアが好きなんですね。畑もあるし適度に緑があって子育てにいいと思うし、親同士も顔見知り。幼稚園の送り迎えとかしていても、子ども時代の友だちと親同士としで顔をあわせたり、ひとがあまり移動していない、というか。それだけ暮らしのかたちができているエリアなのではないでしょうか。

ゆるやかな関係性を意識して始める

――地元に戻られて、〈100人カイギ〉をいち早く始められたわけですが、どんなお気持ちでしたか？
100人と人数が限られていることも面白く感じますが。

この地域が好きで戻ってきたとき、不動産屋を始めるのにまず資格を取りました。不動産業というのもこの頃はずいぶん中身が変わってきているので、大家さん同士が集まるコミュニティに参加したりしました。主体的に小さくコンパクトにできるところから始めようという気持ちでいました。100人と終わりが見えているのも負担になり過ぎない。継続するには、気軽に始められるものがいいだろうと。〈町田市100人カイギ〉のお手伝いもしています。自分たちが会いたい地域の人に会える。そのなかで、つながりが生まれたものもあります。

〈きんじょの本棚〉は〈100人カイギ〉でのつながりから金城さんと出会って自分たちも取り入れさせてもらいました。〈kichika〉では本好きの知り合いとともに「一箱古本市」というイベントを開催しました。

「きんじょの本棚」は金城美由紀さんが始めた町田発の読書活動。すでに140箇所を越え、フェアも開催。

みんながいい気持ちになれることを

――この地下1階の事務所を兼ねた〈kichika〉の本棚もとても素敵ですが、畑と空き家を活用するプロジェクトとか面白い企画がいっぱいのようですが？

〈kichika〉は居酒屋さんとして使われてきたスペースなんですが、自分たちでできるところは手作りで、できないところは専門家に頼むというスタイルで仕上げています。本棚は、本のあいだに座り込んで本を読めるようにしました。（おふたりの写真はその本棚に座って撮影したもの）料理教室やマルシェ、カフェなど知り合いベースですが、応援させてもらいたい人たちにスペースをお貸ししています。

それに、子どもたちにどんな地域として残していきたいかをイメージしたものをイラスト（下図）に描いたりしています。鹿島台小学校の隣接地で実験的にやっているのが、都市農地と遊休不動産の活用を考えた〈畑と倉庫と古い家〉です。若い人たちがここに戻ってきたとき、こうやったら残していけるとアイデアを出して価値をつくっていくことですね。〈100人カイギ〉もそうですが、エリアにも人にもダイブして出会いを楽しんでいる感じ。そのとき、お互いが楽しく、ゆるくスタンスをとって、関わってくれる人みんながいい気持ちになれるようなことをしていきたいです。

ゆるく快い間隔をもってつながる…ご兄弟に新しい世代の人のつながり方を教えられた思いがしました。

※ 渋谷洋平・純平さんの不動産屋さん　有限会社ミフミ https://mifumi03.com/

ユニバーサルデザイン・シティのすすめ

み〜つけタウン

相模大野駅から南市民ホールまで「ナビレコ」を検証。（下写真）
ボーノから銀座商店街の階段前で点字ブロックの配置を確認。
「ナビレコ」に情報をアップすることで課題がはっきりする利点もあります。

▲小島さん

◀左は「ナビレコ」のスマホの案内画面
ダウンロードした情報とGPS機能を使い振動と音声で案内してくれます

ナビレコのサイト

▲上・ナビレンズ画像
アプリで読み取ると「受付」と読むことができます。

ナビレンズのサイト

■バリアフリーとユニバーサルデザインの違いって何だろう？ どちらもまちづくりを考えるときに欠かすことのできない視点です。2016年4月に障害者差別解消法が施行されて合理的配慮が求められることになり、2018年にはユニバーサル社会実現推進法が制定されて、まさに、バリアフリーからユニバーサルデザインが求められるようになりました。

■バリアフリーが高齢者や障がい者への直接の支援だとすると、ユニバーサルデザインは、社会環境の条件整備ととらえられるものです。だれかのため、から、みんなのため、にを、いつも考えて社会を構築しようとする。ユニバーサルデザインはこれからの社会を実現するため、とくに地方公共団体に課せられ、その取り組みと成果を発信することが法律で定められたのです。

■その意味では、タイトルを「すすめ」とするのは後退した呼びかけになっているでしょう。しかし、まだまだユニバーサルデザインの言葉もその内実も社会に行きわたっているとは言えません。このまちに実現されているユニバーサルデザインはどこにみつけられるでしょう？ もっと身近な暮らしのなか、もっと多様にユニバーサル社会を実感していくことが必要です。だれもが生きやすく、何かのために我慢したり、遠慮したりしなくて済む社会環境は、ささやかな工夫で実現できるのですから。

■さぁ、さっそくこのまちのユニバーサルを探しにいきましょう！

まち歩きをユニバーサルにしてくれる助っ人の登場——（一社）音声ナビネットの小島裕生さん（中央区在住）

今年8月23日ソレイユさがみにて、橋本商店街協同組合の協力を得て「視覚障害者接客対応セミナー」が開催されました。主催は一般社団法人音声ナビネット（拠点・練馬区）、講師をされていたのは相模原市中央区在住の小島裕生（こじま・ひろき）さんでした。

小島さんが幼少期を過ごしたのが相模原の近く。適度にいなかのこのまちを気に入って、いつか戻りたいとの思いをお子さんの小学校入学を機に実現。平日は都内に通勤しています。ひとりで走ることが趣味で、自分のことしかない生活をしている自分だったと小島さんは言われます。

それが、東日本大震災 3.11の2か月後にボランティア・ツアーで陸前高田に行ったことで変わったそうです。気負いもなく、ただ純粋に人のためになりたいと淡々と手伝っている人たちを見たのと、そんな人たちに感謝して帰途につくボランティアたちが乗り込んだバスに深々と頭を下げつづける老夫婦の姿に打たれた、と。そしてブラインド・ランナーの伴走や視覚障がい者のための道案内マップづくりなどの市民活動を広げていきます。まちづくりにつなげたい思いはもちろんあるものの、自分自身の人生が広がった思いがする、と小島さん。すでに、自分の住まう相模原市内を中心に遠く九州・大分までアップした道案内情報は60本にのぼります。

ユニバーサル・ツールとしての道案内（ナビレコ）と会場案内（ナビレンズ）

そんな小島さんとの出会いがあって、このたび〈ここ de シネマ〉をバリアフリーからユニバーサルデザイン上映会に育てるにあたり、最寄りとなる相模大野駅から会場となる相模原南市民ホールへの道案内となる「ナビレコ」の情報アップをお願いし、10月には実際に GPS 機能を活用したスマホ情報で実地検証のために歩いてみました。白杖をもっておひとりでも映画鑑賞にお見えになれることになれば、素敵。「映画を見る」から「映画を見に行く」にステップアップを目指します。

南市民ホールは南区役所、大野南公民館とひとつの建物になっています。建物内では GPS 機能が使えなくなってしまうため、いちばん奥に位置するホール入口へのご案内も必要と考え、小島さんと相談。当日は、建物ロビーから「ナビレンズ」の表示を活用することにいたします。壁面のサインをスマホを360度回して読み取るのが「ナビレンズ」。

視覚障がい者に優しいことは、晴眼者にもやさしい。——だれにも優しいのがユニバーサルデザイン。どうぞ、よければあなたも体験してみてください。情報保障はあなたも快適にしてくれると気づくはずです。

さがみはらの駅・駅周辺等バリアフリーマップのサイトはこちらから▼

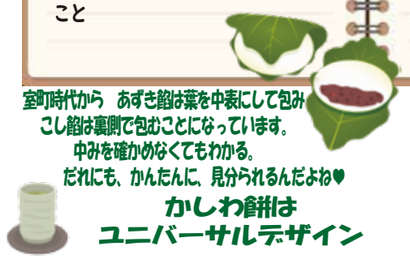
となりまちはもう「ユニバーサル社会」を目指してる

ユニバーサルデザインのまちづくりで いいこと ふくらむ まち だ

「ユニバーサルデザインの7原則」

ユニバーサルデザインは1985年ロナルド・メイスさん（アメリカ）が提唱。
対象が限定されるバリアフリーと違い
すべてのひとを対象として 7つの原則に基づく。

- 原則① 公平性 だれにもでも公平に利用できる
- 原則② 柔軟性 使う上で自由度が高いこと
- 原則③ 単純性 使い方が簡単ですぐわかること
- 原則④ 明瞭性 必要な情報がすぐに理解できること
- 原則⑤ 安全性 うっかりミスや危険につながらないデザインであること
- 原則⑥ 省力性 無理な姿勢をとることがなく少ない力でも楽に使用できること
- 原則⑦ 空間性 アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること



室町時代から あずき餡は葉を中表にして包み こし餡は裏側で包むことになっています。
中みを確かめなくてもわかる。
だれにも、かんたんに、見分けられるんだよね♥
かしわ餅は ユニバーサルデザイン

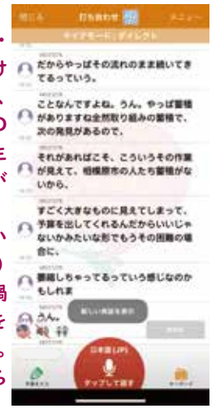
フジテレビ系列ドラマ『Silent』に登場して、一気に知られるようになったUDトーク。会話を文字にする音声認識ソフトです。これまで〈ここ deシネマ〉にお出かけくださった方は、挨拶やトークをテキストの字幕にしてくれるアプリとして体験してくださっていると存じます。

この UD トーク、日々使い勝手が向上するとともに使われるシーンも広がってきています。

UDトークマニュアルの QR コード

新しいコミュケーション・ツール UDトーク®って知ってる？

UD TALK



● 相模原中央支援学校（市内中央区）は、知的・肢体に加え聴覚と視覚に障がいのあるお子さんを受け入れている養護学校です。聴覚障がいの子どもたち、とくに中等部からは教科別担任となるため先生方がUDトークを活用。令和3年度からは聴覚障がいのある先生が見えて、手話通訳者1名配置では研修等でも対応が困難なためUDトークを活用することになりました。

● 同様に、和光大学（町田市）では聴覚障がいの学生のために原則ノート・テイカー（ 要約筆記）で対応していたところ、学生増と折からのコロナ禍でUDトークを導入。現在、大学が希望者にIDを付与して、ゼミ等対象学生の周りで活用しています。

● そして、おとなりの町田市。2016年ころから法人向けプラン契約を結び庁舎内の全 iPad にUDトークをインストール。窓口及び聴覚障がいのある職員の周囲で活用しているとのこと。UDトークの導入が障がいの有無をこえた人材活用の機会を拡げているのです。オンライン会議のために導入した会議用マイクスピーカーを iPad と接続するようになって、UDトークの課題である識字率がアップしたとのこと。さすがに、全国でいち早く「福祉のまちづくり」に歩みだした町田市。年内にもユニバーサルデザインの先、「だれでも」「いつでも」住みやすいコンセプトの元、新たな災害対策を加味した「ユニバーサル社会」という社会像を実現する全国初の計画の策定にとりかかっているのでした。

町田市の訪問は、聴覚障がい者の担当者をまじえて対応いただき、実際に UD トークを活用して話し合い。上は、そのやりとりのひとコマで文字化されているのは記者発言。町田市として法人向けプラン契約しているので背景に町田市のロゴが見えています。

相模原市議会も アミボイス＝議事録用音声認識ソフト AmiVoice の導入開始！

車イス席側の本会議場傍聴席に設置されたモニター（左写真）。UDトークと同じ音声認識エンジンAmiVoice（アミボイス）により本会議の議論をオンタイムで文字化して映し出すためのものです。漢字にはルビがふられ、誤変換はさけられないものの早口だったり、馴れない専門用語も即座に文字表記されるので、聴覚障がい者のほか一般の傍聴者にも優しいもの。

「分かりやすく、開かれた議会」の実現を目指し、市議からの発意で9月定例議会から本会議に導入された AmiVoice。先進の川崎市議会も視察、wi-fi 環境に左右されないことで選択したとのこと。今後ネット中継への活用、傍聴環境だけでなく障がい当事者の市議誕生への可能性がひらかれました。

町田市福祉総務課がまとめているバリアフリーのための案内書＝ハンドブックがすごい！
その内容の質の高さは何度も改訂を繰り返していることからもうかがえる。
「心のバリアフリー ハンドブック」は、町田市立小学校4年生全員に配布。啓発冊子となっているそうだ。・・・ う〜ん、相模原にもほしいぞ、こういうハンドブック！

ここdeシネマ番外編　巡回上映会を始めます♥

ぴあ・さぽ report

日本で唯一のユニバーサル映画館
CINEMA Chupki TABATA

チュプキさんとコラボして音声ガイドつくったよ♥

チュプキ受付にて▶
代表の平塚千穂子さん

ここ de シネマでは、原則、聴覚障がいの方のための字幕と視覚障がいの方のための音声ガイドを付けて上映しています。字幕・音声ガイドが付いていない作品を上映したいときは自分たちで作ります。映画の専門家でないわたしたちにはその作業はすべて手探りです。そんなとき、手を取って教えてくれる存在が〈バリアフリー映画鑑賞推進団体 City Lights〉さんであり、東京都北区に開館した〈シネマチュプキ〉さん。ここ de シネマ開催ではさまざまにチュプキさんに援助いただいてきました。

「バリアフリー上映ではなく、ユニバーサル上映を」とユニバーサル上映への道筋を示唆してくれたのもチュプキさんです。「障がい」の「がい」を「碍」と表記し、障がいはその人にあるのではなく社会や環境にあるのだと、車イスでも発達障がいのお子さんとでも映画鑑賞できるなど、障がい者のいないユニバーサルシアターを実現しています。第20回の上映作品「荒野に希望の灯をともす」は、残念ながら字幕・音声ガイドがありませんでした。でも、みんなとともに観たい映画との思いはチュプキさんも同じでした。そこで今回、字幕をチュプキさん、音声ガイド台本はわたしたちで、モニター会と収録はチュプキさんの2階で、と分担して制作しました。おかげで字幕・音声ガイド付きで上映ができます。何よりもチュプキさんとコラボするという経緯を共有できたことが嬉しく、感謝しています。

音声ガイドをつくるヤマ場・モニター会。
盲導犬も長時間付き合ってくれました。
（10月18日、チュプキ2階にて）

通じ合うことを教えてくれる『こころの通訳者たち』を上映しよう！

2021年/監督・山田礼於/94分
ドキュメンタリー/©Chupki

What a Wonderful World

チュプキさんの活動から生まれた映画『こころの通訳者たち』は説明しにくい不思議な作品です。『ようこそ　舞台手話通訳の世界へ』という舞台手話という聞き馴れない手話をつくりあげて公演するまでを追ったドキュメンタリー映画があって、そこに音声ガイドを付けていく作業過程を追ったドキュメンタリー映画です。映画自体が入れ子仕立てになっている上に、手話も音声ガイドも馴れない方にとっては、普段の想像の外にあるものかもしれません。だからこそ、この映画を大きなホールではなく、小さなスペースで「こころを伝え合う」形でいっしょに観たいのです。手話通訳関係者だけでなく、ともに生きるを考える全ての方にとって必見の映像作品です。

上映会の出前します！
10～30人ぐらい
会場はご相談にて
上映時期は
ロードショー上映後
2023年の2月以降
参加費用
ひとり1000円
申込は　ここずっとへ

Information

ここdeシネマ第20回は1月6日（金）開催

●中村哲さんの映画と監督のアフタートーク

劇場版　荒野に希望の灯をともす

谷津賢二監督アフタートークあり♥

新年いちばんに
わたしたちも　また
哲さんに希望の灯を
分けてもらう

© 日本電波ニュース社

参加費 1000円

昼の部　開場 14：00　開始 14：30～
夜の部　開場 17：30　開始 18：00～
会場・相模原南市民ホール
※ナビレコ・ナビレンズあります。2P 記事参照ください。

チケット購入のぴあサイト

クリップ・ボード

■ここdeシネマ地域事業者連携企画

くまざわ書店相模大野店（ステーションスクエア相模大野6階）が『荒野に希望の灯をともす』上映会にあわせて、12月に〈中村哲さんの著書のブック・フェア〉を開催します。映画本編に紹介される哲さんの言葉を、その著書で、どうぞ、繰り返しお確かめください。

くまざわ書店

■ここdeシネマ第18回上映の「戦車闘争」がコミックに

2022年は「戦車闘争」から50年。「戦車闘争」の精神がさがみはらの基盤づくりに寄与してきたことを考え、改めて次世代にその経緯や評価を発信したいと、相模原地方自治研究センターは、若者にも理解しやすいよう漫画化。近日完成発行予定です。欲しい方は、以下へ。

相模原地方自治研究センター
☎ 042-752-4544
e-mail:wm5h-urn@asahi-net.or.jp

●半券キャンペーン参加事業者募集中です！
●<ここ de シネマ>開催ボランティアも募集中です！

NPO法人ここずっとは
市民相談窓口を開いています。**相談は☎042-745-0676へ。**

『フリー情報紙　ここずたうん』No.22
［発行日］2022年11月
［発行者］NPO法人 ここずっと
〒252-0303 相模大野9-6-18
ここずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は
ここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676　【FAX】042-742-0447
【E-mail】info@cocozutto.jp

※ここずたうんはまちづくりを考える【NPO 法人ここずっと】が発行しています。